



「うフフ……シズメタブンダケ
セキニンヲトツテモラワナイトネ」

「うぎい……お腹、
壊れちゃうよおお！」

深海ノ苗床

触手、孕ませ、出産

「提督……助けて……」

「くっ…」の私が捕まるなんて…」

「ウフフ、アナタミタイナレアナ娘が
手ニハイルナンテ」
「…キヨウハ運ガイイワ」

「サイキンアナタチガ頑張ッテクレタセイデ
戦カブソクナノ…」

「セキニンヲトツテモラワナイトネ…
コレカラ、ワタシタチ苗床ニナツテモラウワ」



「ひっ！？な、なにを！？」

「ダイジョウブ、コノ子タチニマカセテオケバ
キモチヨクハラマセテクレルカラ」

ズル

「キットヤミツキニナルワヨ」



「アラアラカワイイオマンコネエ、ヨイナガメダワ。」

「こ、こんなの恥ずかしいくないんだから!!」

ズズ

ググ

「ヨウジョウナ娘ネ…」

「デモ、ソウイウ娘ノホウガ皆ハリキルカラ、
コチラトシテハコウツゴウナノヨ。」





「ドウカシラ? アナタ処女ノヨウダシ、
ヨウイコトハハジメテデシヨウケド...
キモチガヨイデシヨウ?」

「ひい!!? いやあああ!!」

びっ

んっ

たっ

グチュ

グチュ

ヤブ



「んぎゅんぎゅん…」

うわぁ

びび

びび

びび

はは

ブ
ミヤッ

びび

「セイダイニイッタワネエ…
デモマダ意識ガアルミタイ…」

「ホトシドノ娘ハコレ失神シチャウンダケレド、
ヤハリレアナ娘ハチガウノカシラ？」





ギチ

はっ...? いいやあああ...

「サテ、ソロソロ慣ラシテイカナイトネ」

ぐちゃ



「ぎいー!? 痛いいい、抜いてええええー!」

「ガマンナサイ」

「サイショニカンツウシテオカナイト、
孕マセルトキニ大破シチャウモノ」

ナリ
ブキ

ブキ

ガッ

ブ
ブ
ブ

「あぐらうー!」
「お腹、こわされるぅぅぅぅぅ!」



「あつーっ」

「な……中にいっぱい出されて……!」

かた

ビ

ホッ
ゴッ

ビュ
ー

び

ビュ
ビュ

びゅん

「イイカンジネ、
コレで種付ケモウマクイクデショウ」

「ひぐっ……提督……たすけて……!」

「うぎー!」

腸と膣に深々と突き刺さった触手の先端から
異物が送り込まれる。

ひぎん

ホッ
ゴ!!

「あぐっ!?!」
（な、なにこれ!?! な、中にいっぱい入って!?!）

やう

ガッ

ブ
ッ
ッ
ッ

「体液トハマタチガッタカシヨクデショウ?」

「ワカルカシラ? ソレハ駆逐級ノタマゴナノヨ」

「アノ子タチハ数ガオオイカラ、

コウヤッテイッキニ流シコンデ、イチドニ受精サセルノ」

ザッ

「うぎー!」

腸と膣に深々と突き刺さった触手の先端から異物が送り込まれる。

ひぎん

ホゴ!!

「あぐっ!?!」
（な、なにこれ!?! な、中にいっぱい入って!?!）

やう

ガッ

ブーッ

「体液トハマタチガッタカシヨクデシヨウ?」

「ワカルカシラ? ソレハ駆逐級ノタマゴナノヨ」

「アノ子タチハ数ガオオイカラ、

コウヤッティッキニ流シコンデ、イチドニ受精サセルノ」

ザッ



数
日
後



「ソロソロ出産ノコロアイネ」

「オシリト、オマンコノ触手ヲヌイテアゲルワ」

「うっ…くるしいよお…」
(中の…出たがってる…)

「あぐ、いやあああ、出て来るうー!」

「産みたくないのにいいい、でてきちゃうよおおお!」

「アラアラ、ヨッポドハヤクデタカッタノネエ」

「オシリノ方ハコノママダト詰マツテシマウカモ…
前ノホウカラオシダシテアゲナイト」





「あぐっうぶううううー」
（でちやううううーうまれりゅううううー）

「ド」
「コノ調子デドシドンガンバツテ貰ウワヨー」

「アハハイイ産ミツプリヨオー」
「シツノイイ苗床ニ産ンデモラエテ、
コノ子タチもシアワセネ」

「バ」

「ブ」

「ザ」



「大型…建造…？」

「次ハ、オオガタ建造ニ挑戦シマシヨウ」

「ヨノ子ヲ、アナタノ子宮デアタメテアゲナサイ」

ズ
ム

ズ
ム

ズ
ム

ズ
ム

ズ
ム

「あ……う……こ、こんなに入るわけ……」

「ダイショウブヨ、ミンナサイショハソウイウノ、
ホラアッチヲ見テミナサイナ」





「そ、そんな…雪風…？」

「ソウヨ、彼女ハアナタガ来ル前ニスデニコヨニキタイタワ」

「トテモヨイ苗床ヨ、アナタニ負ケナイクライニネ♪」



「膣肉搔き分けて、入ってくるのおお!!」
「ゆいゆい!!」

「んぎい!!きたあああ!!」
「赤ちゃんゴリゴリきてりゅっつっつ!!」





「無理無理無理いいいいいい！！
絶対入らないよおおおお！！」

オハ
チッ

シ

ダッ

ダッ
フ

ダッ

ダッ

「サツキノ娘ヲミタデシヨウ？
ダイジョウブアナタニモデキルワ」

「あぎいいいいい……」

「壊れちゃうっちゃうっちゃう、壊れちゃうのにいいいい……
ちよっとずつ入ってきちゃってるよおおおお！！」



「…アラアラ、ショックデ目ヲアケタママキゼツシテイルワ」

かん

「」

ドグ

ドグ

ドグ

ブリッ

「ホラ、ハイッター！言ッタデシヨウ？」

ブリッ

「がっ…うぎ…」

「アラ？気ガツイタノネ、サアハヤクヒリダシナサイ」

っあ

ガッ

ドン!!

「う、ぐう...お腹...赤ちゃん出たがって...」

ドゥ

ブル

ブル











「子宮に直接射精されて……妊娠しながらイっちゃいますぅぅぅ……！」

「んほおおお、しゅ……いいいいい、お腹ポコッてきてるっ……！」

「アラアラ、ソシナニホシカッタノネ……
イイワヨオ、壊レルマデ種ツケシテアゲル……！」

ゾッ

あひ

んほい

ポコッ

ドズ

ンキッ

ズ

ポ

カッ

ガッ

数カ月後

「ビッグニュースヨ、アナタが頑張ッテクレタオカゲデ
鎮守府コウリヤクノタメノ戦力ガトトノツタワ！」

「モシ攻略ガセイコウシタラ、ゴホウビニ提督ヲツレキテアゲル。」

「わーい！やったー！！棲姫おねえさま大好き！！」

「あ、でも……しまかぜのこんな姿見たら、提督驚いちゃうかなあ……？」

「ソウネエ、イキナリハシヨックガオオキイカモシレナイワネ」

「サキニ映像デモトツテオキマシヨウ、提督ヲトラエタラミセラレルヨウニ」

「はいー」

「ミテイルカシラ？アナタノ大事ナシマカゼハ、
優秀ナ苗床トシテワタシタチニヨウケンシテクレテイルワ」

「チョウドイマカラ出産スルトヨロヨ」

「アーン」

「キーン」

「モーン」



「んぎい!きたあああ!!おつきくで元気な赤ちゃんでてきたあああ!!」

「ギヒヒヒ!!」

グ

ブリュ

ク

グ
グ
グ

グ

グ



「はひひ、どうでしたかあ？ていとくう…」

「しまかぜ、こんなおっきな赤ちゃんいっぱい産めるんですよ」

んこ

ぐぱあ

「あ、もしかしておちんちん勃っちゃいました？」

おあ

「うふふ、大丈夫ですよお…もうすぐあえますから、その時はしまかぜが提督の赤ちゃんいっぱい産んであげますからね」

びり

フッ



ほどなくして、大艦隊による飽和攻撃を受け、鎮守府は陥落する事となった。

END